

## 主題：神のエコノミーと分与

メッセージ 14

### 神の分与に対する神のエコノミーにおける神の言

聖書：ヨハネ 1:1, 3, 14, 16-18, 29, 32, 42, 51

I. ヨハネ第 1 章はヨハネによる福音書全体に対する序文であり、この序文の主要な強調は、キリストが神の分与に対する神のエコノミーにおける神の言であるということ  
です。彼は奥義的な見えない神の定義、説明、表現です——1 節：

A. 神の言としてのキリストは、大いなる「わたしはある」であり、自ら存在し永遠に  
存在します。彼は永遠である方であり、始まりも終わりもありません——出 3:14-15.  
ヨハネ 8:24, 28, 58. ヘブル 7:3。

B. ヨハネ第 1 章はキリストに言及し、永遠と時間の架け橋の二つの区分があり、宇宙  
の歴史における五つの最も偉大な出来事、すなわち創造、肉体と成ること、贖い、  
油塗り、建造があります——参照、詩 90:1-2：

1. ヨハネ第 1 章は、ヨハネによる福音書全体への序章として、過去の永遠における  
言としての「行程を行く」三一の神が、未来の永遠において究極的に新エルサレ  
ムになることの歴史の要約です——1, 51 節。

2. ヨハネ第 1 章が結晶化された方法でわたしたちに見せているのは、永遠の言が彼  
の創造する働きにおいて、また時間の架け橋を渡って行程を行くことにおいて、  
肉体と成り、彼の法理的な贖いを完成し、油塗り、命を与え、造り変える霊と成  
って、彼の有機的な救いを遂行し、究極的に、彼の再生され、造り変えられ、栄  
光化された花嫁と完全に結合され、ミングリングされ、合併されて、新エルサレ  
ム、究極のベテル、神と人の相互の住まいとなるということです。

C. この五つの宇宙的で歴史的な出来事において、神の言であるキリストは（1. 創造  
における創造主、2. 肉体と成ることでわたしたちの間に幕屋を張った人、3. 贖  
いにおける小羊、4. 造り変えにおける油塗る霊、5. 神の建造のために地を天に  
結び付けることでのほしごととして）、見えない神を定義し、説明し、表現します  
——参照、1 節、エペソ 6:17. ヨハネ 6:63。

II. 言としてのキリストは、神の創造を通して神のために語ります——1:3：

A. 「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。昼は昼に言葉を出  
し、夜は夜に知識を告げる。話もなく、言葉もなく、その声も聞かれない」——詩  
19:1-3。

B. 「神の見えない永遠の力と神性の特徴は、世界が創造されて以来、明らかに見られ  
ており、造られた物によって認められているので、彼らには弁解の余地がありませ  
ん」——ローマ 1:20。

C. 使徒第 14 章 15 節から 17 節と第 17 章 24 節から 29 節で言及されていることは、神  
の創造を啓示する同じ目的に役立ちます——参照、ヘブル 11:3. 1:2. ハガイ 2:7。

III. 言としてのキリストは、神の幕屋として肉体と成ることを通して神のために語ります

——ヨハネ 1:14 :

- A. 言は、肉体と成ることによって、神を人性の中へともたらしただけでなく、人々の間の地上の神の住まいとして神への幕屋ともなり、恵みと実際に満ちていました：
1. 律法は、神が何であるかにしたがって人に対して要求をします。恵みは、神が何であるかをもって人に供給し、神が要求するものに応じます—— 17 節。
  2. 「わたしたちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた」—— 16 節。
- B. 彼は肉体と成ることにおいて、三一の神の具体化となり、神を人にもたらし、神を接触することができる、触れることができる、受け入れることができる、経験することができる、入ることができる、享受することができるものとなりました。
- C. 彼は神・人となり、神性を人性の中へともたらし、神性を人性とミングリングしました。
- D. 神のひとり子が肉体と成ることは、神を人に対して言において、命において、光において、恵みにおいて、実際において、明らかに示す（説明する）ためでもあります—— 18 節：
1. 言は、表現され、説明され、定義された神であり、それは人が神を理解することができるためです。
  2. 命は分け与えられた神であり、それは人が神を受け入れることができるためです。
  3. 光は輝く神であり、それは人が照らされて神を見ることができるためです。
  4. 恵みは人によって享受される神であり、それは人が神の豊富にあずかることができるためです。
  5. 実際は人によって実際とされた神であり、それは人が神に近づき、神を知ることができるためです。

**IV. 言としてのキリストは、彼が神の小羊となることを通して神のために語ります—— 29, 36 節 :**

- A. キリストは失われた世の人の贖いのために小羊となることにおいて、どのようにして神が、神の義にしたがった手続きとしてのキリストの死を通して、キリストの贖いを法理的に完成したかについて、わたしたちに語ります。
- B. 神の小羊は、旧約のすべてのささげ物の成就として、神の完全な贖いを完成する肉体における言を表徴します：
1. キリストは、罪のためのささげ物、違犯のためのささげ物、全焼のささげ物、穀物のささげ物、平安のささげ物、揺り動かすささげ物、挙げるささげ物、注ぎのささげ物の実際です。
  2. すべてのささげ物としてのキリストと共に、わたしたちは神の完全な贖いを持っており、この贖いを経験し享受することができます。

**V. 言としてのキリストは、神の贖われた民を石へと造り変えるため（32-42 節）、神の家の建造のため（ベテル—— 51 節）、有機的に新エルサレムのために、彼が油塗る霊と成ることを通して神のために語ります :**

- A. キリストは命を与える、油塗る、造り変える霊と成ることにおいて（I コリント 15:45）、どのようにして神が、彼の心の願いにしたがって彼の神聖な定められた御旨のために、彼の神聖な命によって彼のエコノミーを有機的に遂行するかを、さら

にわたしたちに語ります。

B. わたしたちは目を覚まして、日常生活において何をも、わたしたちの霊の中の油塗る霊としてのキリストに置き換えさせないようにする必要があります—— I ヨハネ 2:20, 27 :

1. キリストは油塗られた方であり、油塗る方、また油塗りとなります。反キリストの原則に生きることは、反油塗りとなることです（「反」は、「敵対する」、「の代わりに」、「に代わって」を意味します）—— 18, 22 節, 4:3, II ヨハネ 7 節。
2. 反キリストになるとは、キリストに敵対し、キリストを他のものと置き換えることです。
3. もしわたしたちがキリストを自分自身の振る舞いや性格のものと置き換えるなら、ある事柄をキリストご自身に置き換えさせることにおいて、反キリストの原則を実行しています——参照、ピリピ 1:21, 4:4-9。
4. わたしたちは反キリストの原則の中で日常生活を持ち、文化、宗教、倫理、天然の観念に、内なる油塗りとしてのキリストを置き換えさせることについて、悔い改める必要があります。これは反油塗り、わたしたちの内側の三一の神の反行動、働き、浸透です。
5. わたしたちはこう祈るべきです、「主よ、わたしたちは油塗り、わたしたちの内側の三一の神の行動、働き、浸透の中で、それをもって、それを通して、それによって生き、歩きたいです」。

C. ペテロの回心の時、主は彼にペテロ、すなわち石という新しい名を与えました（ヨハネ 1:42）。そしてペテロがキリストに関して啓示を受けたとき、主は彼が岩、すなわち石であることをさらに啓示しました（マタイ 16:16-18）。この二つの出来事によって、ペテロは、キリストと彼の信者たちが神の建造のための石であるという印象を受けました（I ペテロ 2:4-8）。

D. はと、その霊は創造された人を再生し、天然の人を油塗って造り変え、造り変えられた人を結合します。

VI. 言としてのキリストは、彼が天（神）を地（人）にもたらし、地（人）を天（神）に結び付けるはしごとなることを通して神のために語ります——ヨハネ 1:51, 創 28:11-22 :

A. キリストはまた、ベテルでの天のはしごであることにおいて、神が地上に、彼の贖われ造り変えられた選民で構成された家を持ち、彼が天を地にもたらし、地を天に結び付けて、両方を一つの実体とすることをいかに願っているかを、わたしたちに語ります。

B. ヤコブの夢はキリストの啓示です。なぜならキリストは、ヤコブがベテル、すなわち神の家で見たはしごの実際であるからです—— 12 節, ヨハネ 1:51 :

1. わたしたちの再生された霊は、今日の神の住まいであり（エペソ 2:22）、天のはしごとしてのキリストが設立された地上の基礎です（II テモテ 4:22）。
2. ベテル、神の家、神の住居、すなわち天の門において、キリストは地を天に結び付け、天を地にもたらしはしごです。ですから、わたしたちは霊に向くときはいつも、神をわたしたちにもたらし、わたしたちを神にもたらしはしごとしてのキ

リストを経験します。

3. 天のはしごとしてのキリストが神の建造、すなわちベテル、召会、キリストのからだ、このはしごの究極的完成であることの結果は新エルサレムです。
- C. 「主の再来は、彼を追い求める者たちの堅固な建造を必要とします。この建造は、彼が地を占有するための踏み石、橋頭保となり、神と人の両方の相互の住まいとなるでしょう。それは永遠に神性と人性との、また人性と神性とのミングリングであるでしょう。この建造はヤコブの夢の究極的な成就であるだけでなく、神の永遠のご計画の究極的な成就でもあります。それは時間の架け橋を終わらせ、未来の祝福された永遠を導入します。わたしたちはその建造のためでなければならず、その建造でなければなりません！」（ヨハネによる福音書ライフスタディ、第5編）。